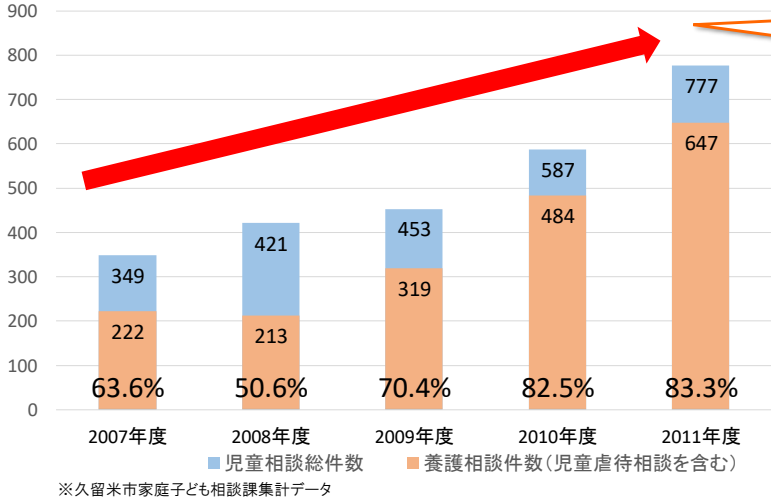
久留米市セーフコミュニティ
児童虐待防止対策委員会

発表日　2023年7月31日
発表者　児童虐待防止対策委員会 委員長　　吉岡 マサヨ
所　属　ＮＰＯ法人　ル･バトー

1-１.児童虐待防止対策委員会の設置の背景 <取組開始時>

<単位:件>

【図表1】児童相談対応件数



※久留米市家庭子ども相談課集計データ

児童虐待に関する相談
件数が年々増加傾向

↓

児童虐待防止のため
取組の強化が必要

↓

セーフコミュニティで
児童虐待防止の取組を！

1-2.児童虐待防止対策委員会の設置の背景 <取組開始時>

【図表2】 久留米市における児童虐待の重大事件

	発生日	事件名	被害児	加害者
1	2010年6月	傷害致死事件	5歳女児	実母
2	2011年8月	傷害・保護責任者遺棄事件	2歳女児	実母・内夫
3	2012年2月	傷害事件	4歳男児	実父
4	2012年5月	乳児死体遺棄事件	0歳男児	実母
5	2012年7月	傷害事件	5歳女児	実母

久留米市において児童虐待の重大事件が発生

↓

それぞれの家庭が地域から孤立していた

↓

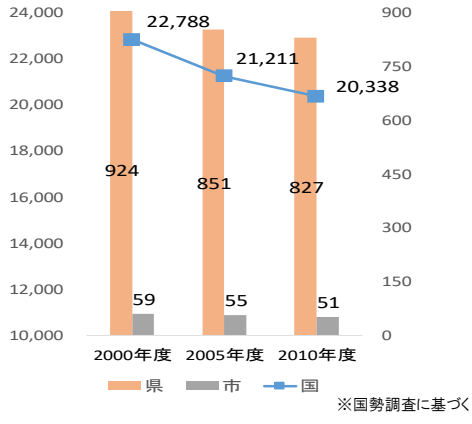
セーフコミュニティで子育て家庭の孤立化を防ぎ児童虐待防止へつなげる

1-3.児童虐待防止対策委員会の設置の背景 <取組開始時>

1. 減り続ける子どもの数

【図表3】 国・県・久留米市における子ども(18歳未満)の数の推移

<単位：千人>

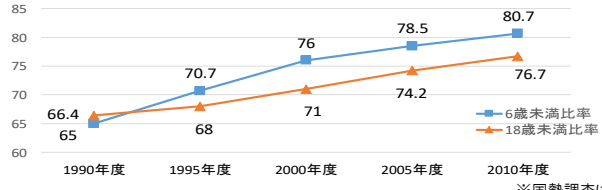


※国勢調査に基づく

2. 子育て家庭の核家族化が進行

【図表4】 子どものいる家庭に占める核家族世帯の推移(久留米市)

<単位：%>

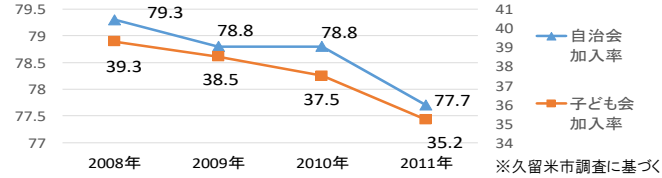


※国勢調査に基づく

3. 地域のつながりが希薄化

【図表5】 久留米市内の自治会加入率と子ども会加入率の推移

<単位：%>



※久留米市調査に基づく

2.児童虐待防止対策委員会の構成メンバー(2022年現在)

区分		所属
民間団体 住民組織等	1	久留米市私立幼稚園協会
	2	久留米市民生委員児童委員協議会
	3	（一社）久留米市保育協会
	4	（特活）にじいろＣＡＰ
	5	（特活）ル･バトー
	6	（特活）子育て支援ボランティアくるるんるん
	7	久留米市小･中学校ＰＴＡ連合協議会
	8	久留米市校区まちづくり連絡協議会
関係機関	9	福岡県久留米児童相談所
	10	久留米警察署
行政機関	11	久留米市子ども未来部子ども政策課
	12	久留米市子ども未来部こども子育てサポートセンター
	13	久留米市子ども未来部家庭子ども相談課
	14	久留米市教育部学校教育課

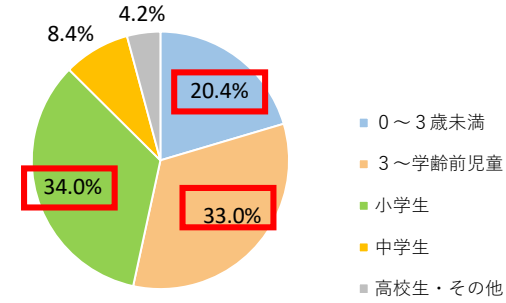
2019年追加

3-1.データに基づく課題

被害者の約87％が小学生以下

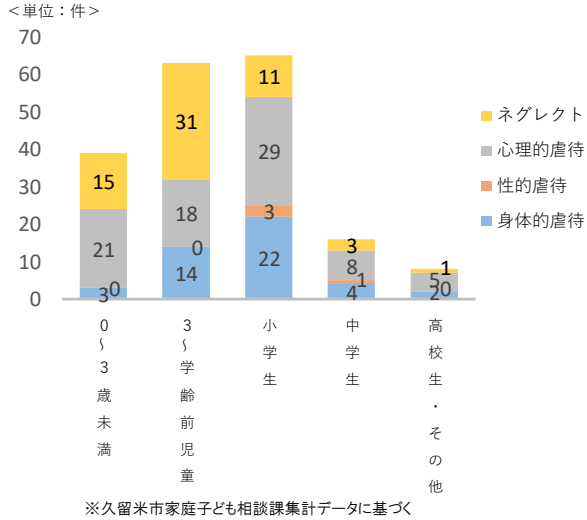
【図表６】 虐待被害者の年齢構成

（2021年度）



※久留米市家庭子ども相談課集計データに基づく ＜N=191＞

【図表７】 虐待の種類別･年齢別対応件数（2021年度）

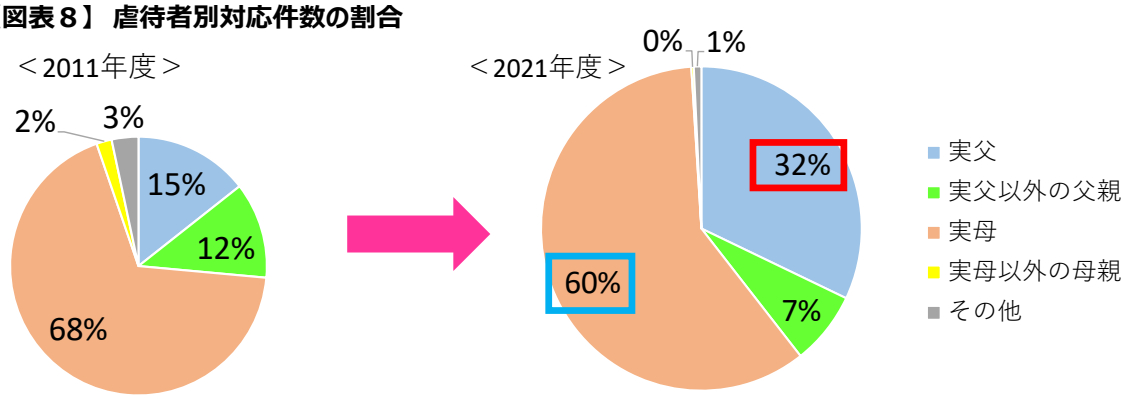


※久留米市家庭子ども相談課集計データに基づく

3-2.データに基づく課題

虐待者の約6割が実母であるが、父親の割合も増えている

【図表８】 虐待者別対応件数の割合



※久留米市家庭子ども相談課集計データ ＜N＝208＞

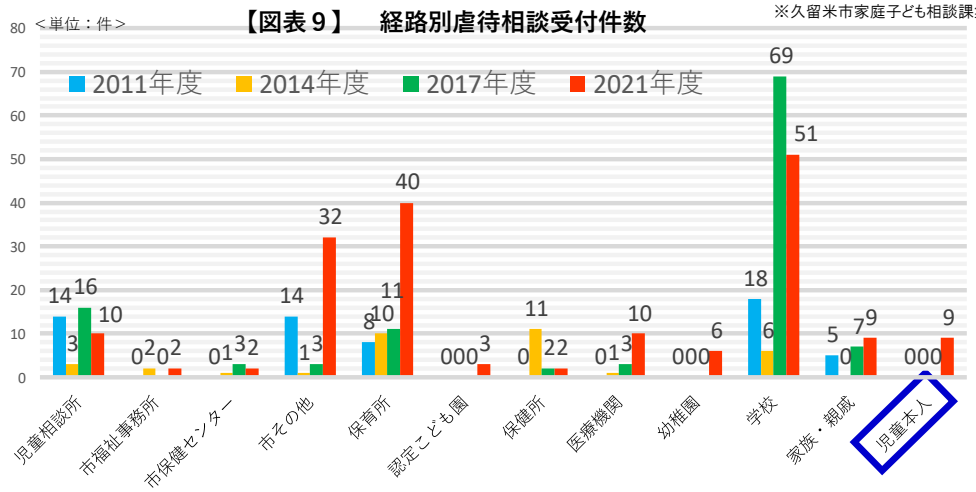
※久留米市家庭子ども相談課集計データ ＜N＝191＞

3-3.データに基づく課題

子ども自身からの相談が少ない

【図表９】 経路別虐待相談受付件数

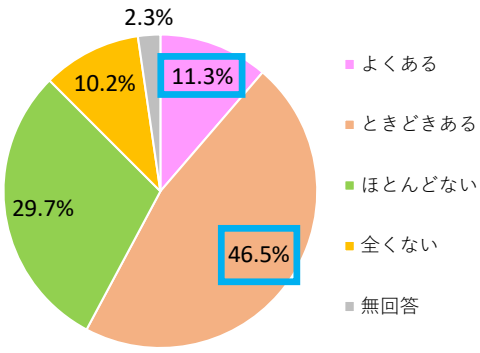
※久留米市家庭子ども相談課集計データ



3-4.データに基づく課題

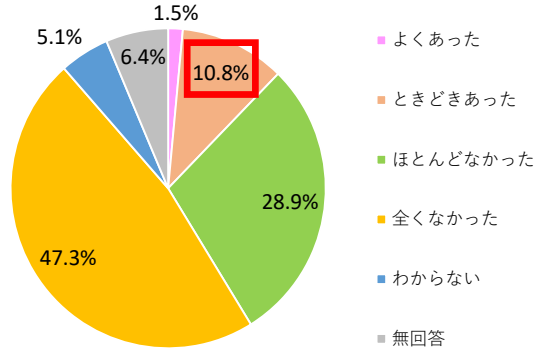
子育ての困難を感じたことがある人が約6割いる

【図表１０】 子育てに困難を感じることの有無



※2021年久留米市SC実態調査 ＜N=471＞

【図表１１】 児童虐待をしているのではないかと思った経験

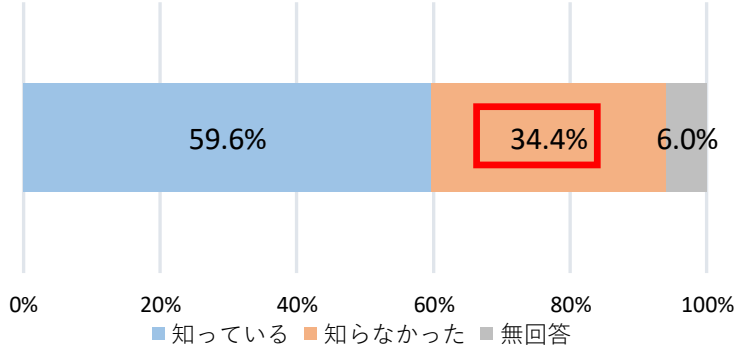


※2021年久留米市SC実態調査 ＜N=471＞

3-5.データに基づく課題

子育てに関する相談窓口を知らない人が一定数存在している

【図表１２】 子育てに関する相談窓口について



※ 2021年久留米市SC実態調査

3-6.データに基づく課題

子育てに困難を感じながらも相談する人がいない人が存在している

【図表１３】 子育てに関して相談できる人がいるか【子育ての困難さを感じるかの有無別】（複数回答）

		サンプル数	同居中の家族	友人や知人	他に住んでいる親族	市家庭子ども相談課など市の相談窓口	民生委員や主任児童委員	NPOなど民間の相談機関	県や国の相談機関	その他	相談できる人はいない	無回答
全　体		471 100.0	293 62.2	243 51.6	217 46.1	17 3.6	12 2.5	8 1.7	3 0.6	8 1.7	14 3.0	37 7.9
子育ての困難さを感じるかの有無別	よくある	53 100.0	28 52.8	28 52.8	24 45.3	**7 13.2**	**4 7.5**	2 3.8	0 0.0	5. 	**5 9.4**	2 3.8
	ときどきある	219 100.0	143 65.3	**130 59.4**	**113 51.6**	4 1.8	5 2.3	5 2.3	1 0.5	4 1.8	4 1.8	4 1.8
	ほとんどない	140 100.0	94 67.1	70 50.0	62 44.3	5 3.6	3 2.1	1 0.7	1 0.7	0 0.0	4 2.9	15 10.7
	全くない	48 100.0	27 56.3	13 27.1	18 37.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	1 2.1	1 2.1	1 2.1	7 14.6

※ 2021年久留米市SC実態調査

4.課題解決のための目標と具体的施策

課　題	目　標	具体的施策
・虐待者の約6割が実母である 【図表８】 ・子育てに困難を感じる 【図表１０】 ・相談窓口を知らない人がいる 【図表１２】 ・相談できない人がいる 【図表１３】	地域で気軽に相談できる体制作り	①新生児訪問事業の地域連携
・子育てに困難を感じる 【図表１０】 ・大人になる前に小さな子どもと接する機会が減少している 【社会的背景】	命の大切さを学ぶ教育の支援	②赤ちゃんふれあい体験事業
・虐待被害者の多くが小学生以下である 【図表６】 ・子ども自身からの相談が少ない 【図表９】	子ども自ら相談できる体制づくり	③児童虐待防止啓発事業

5.レベル別の対策

【図表14】

目 標	対 策			
	分類	国県レベル	市レベル	地域レベル
地域で気軽に相談できる体制作り	教育・啓発		相談窓口の周知	
	環境整備		こんにちは赤ちゃん訪問事業	見守り活動
	規 制	子ども子育て支援法		
命の大切さを学ぶ教育の支援	教育・啓発		相談窓口の周知 思春期保健出前講座	
	環境整備		校区子育てサロン実施の補助	校区子育てサロンの実施、参加
	規 制	子ども子育て支援法		
子ども自ら相談できる体制作り	教育・啓発	児童虐待防止推進月間（オレンジリボン運動）	オレンジリボンキャンペーンの実施	
	環境整備		子どもの権利等啓発事業	研修会への参加
	規 制	児童福祉法、児童虐待の防止等に関する法律		

【対策委員会】
①新生児訪問事業の地域連携

【対策委員会】
②赤ちゃんふれあい体験事業

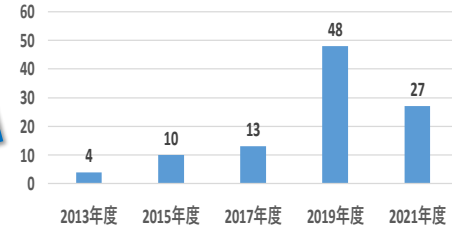
【対策委員会】
③児童虐待防止啓発事業

6-1-1.取組事例・成果

① 新生児訪問事業の地域連携

地域で気軽に相談できるきっかけづくり

＜単位：件＞ 【図表１５】主任児童委員の同行訪問件数



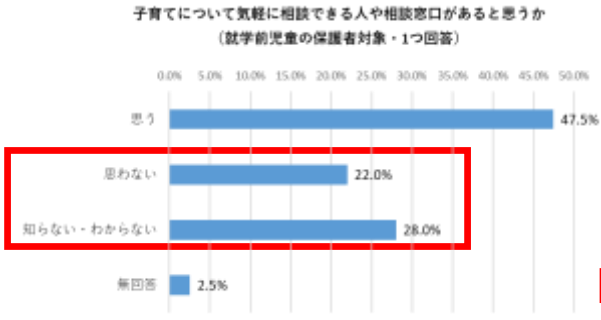
6-1-2.取組事例・成果

① 新生児訪問事業の地域連携

「相談できる人はいない」
の割合は少ない

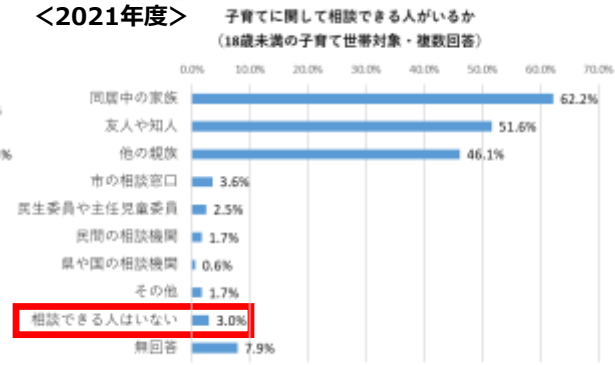
【図表１６】 子育てに関して相談できる人がいるか

<2008年度>



※2008年久留米市次世代育成支援に関するニーズ調査 <N=1,506>

<2021年度>



※2021年久留米市SC実態調査 <N=471>

6-2-1.取組事例・成果

② 赤ちゃんふれあい体験事業

地域の「子育てサロン」
を中学校へ出前

命の大切さを学び
自尊感情が高まる

【中学生のアンケート】
・赤ちゃんは、とても小さくて、柔らかくて、
ちょっとしたことで壊れてしまいそう。
・あたたかくて、重さもあって、生きているんだな。
・将来、自分の子どもができたら、大切にして、
いい子どもに育てたい。

6-2-2.取組事例・成果

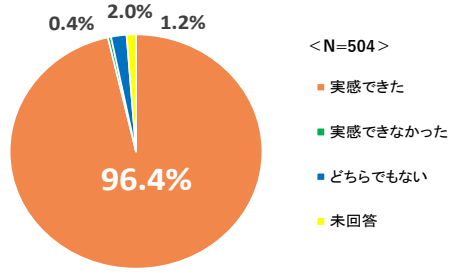
② 赤ちゃんふれあい体験事業

実施校数

【2012年】 【2017年】 【2019年】

2校 → 8校 → 8校（約850人）

【図表17】赤ちゃんふれあい体験で命の大切さを実感できたか（2019年度）



6-3-1.取組事例・成果

③ 児童虐待防止啓発事業

【図表１８】啓発チラシの配布枚数

2019年度	3,095枚
2020年度	3,890枚
2021年度	6,686枚

子どもの権利や児童虐待についての知識の向上

6-3-2.取組事例・成果

③ 児童虐待防止啓発事業

子ども自身から相談できる体制づくり

児童虐待防止講演会

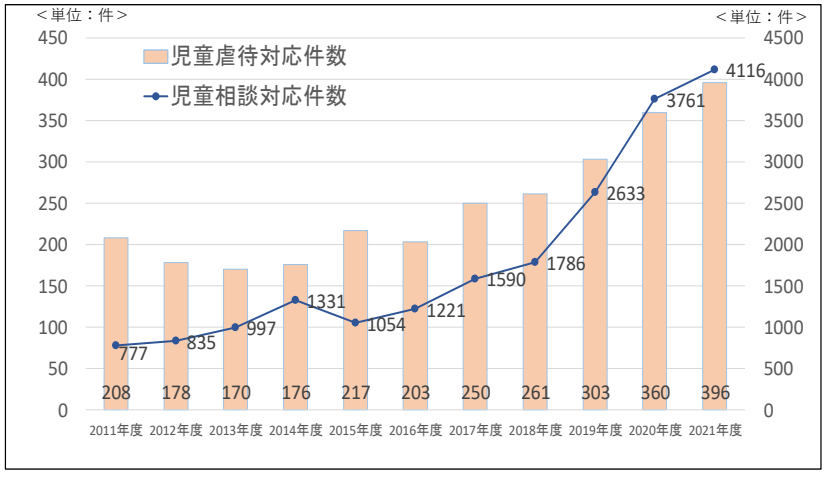
子ども自らの相談する力等の育成を図る授業

【図表１９】授業・研修の実施数（2021年度）

市立小学校 小学4年生対象	41校 83学級 約2,350人
教職員向け	43校
地域・団体向け	3地域 82人

7.取組による全体的な成果

【図表２０】 児童相談対応件数と児童虐待対応件数の推移



※久留米市家庭子ども相談課集計データ

児童虐待の認識と相談窓口の認知

↓

相談対応件数全体の増加

↓

早期発見・早期対応へ

8.新型コロナウイルス感染拡大防止の工夫
児童虐待防止啓発事業

視聴回数 1,587回

子育て応援動画の配信

市と関係機関の窓口で2,000セット

啓発グッズの設置・配布

9-1.再認証後の変化

１．子どもが自らの相談する力やＳＯＳを発信する力の育成

- 小学校4年生へ授業
- 教職員向け研修
- 地域向け研修

子ども自身からの相談増加

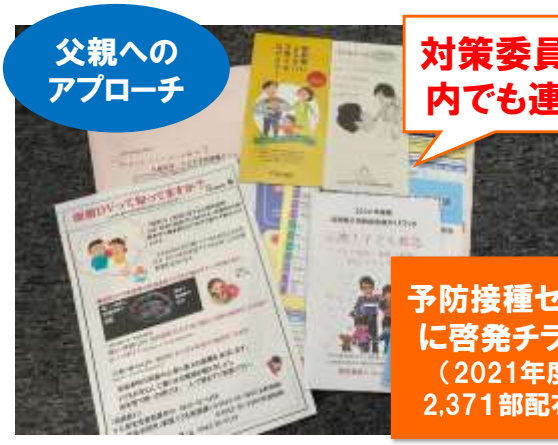
9-2.再認証後の変化

2．対策委員会間や関係機関との連携強化

DV防止対策委員会と連携

本庁舎ライトアップ（2021年度2日間）

父親へのアプローチ



対策委員会内でも連携

予防接種セットに啓発チラシ（2021年度2,371部配布）

10.課題と今後の対応

1.父親が虐待者である割合が増えてきている

・父親への啓発の工夫

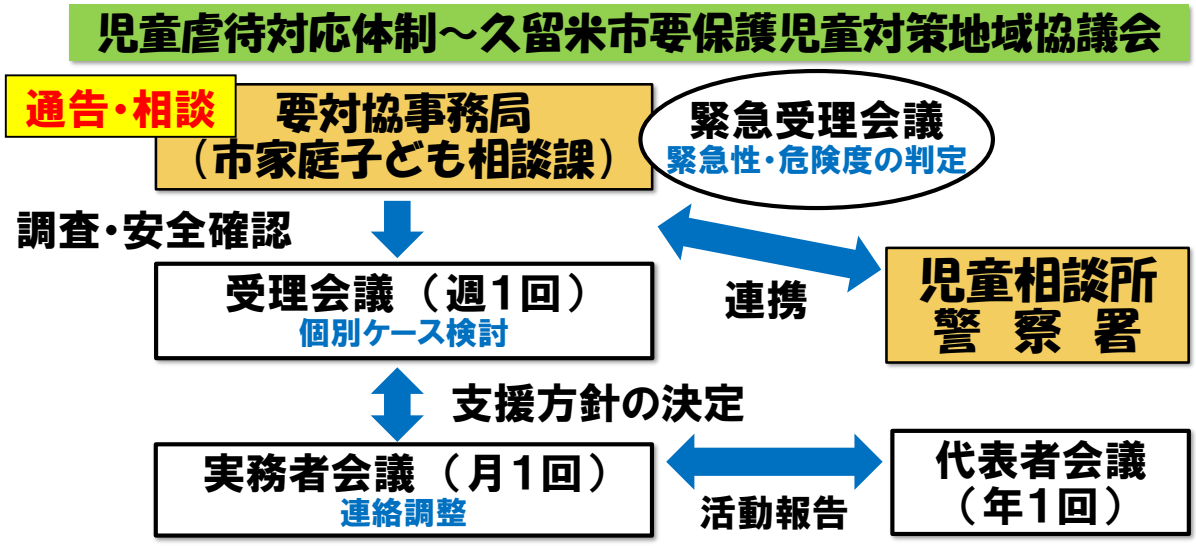
2.相談窓口を知らない人が一定数いる、相談できていない人がいる

・気軽に相談できる取り組み

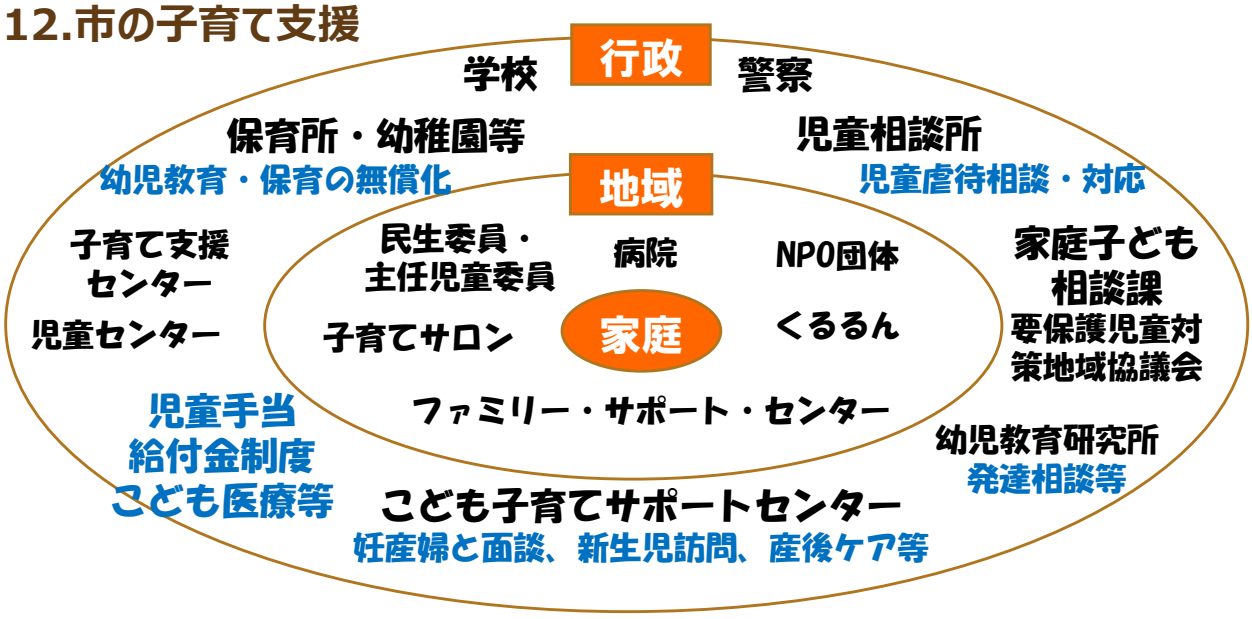
3.子ども自身からの相談が少ない

・「子ども自らの相談する力等の育成を図る授業」を継続的に実施

11.市の児童虐待への対応



12.市の子育て支援



ご清聴ありがとうございました。

児童虐待防止対策委員会

合同対策委員会についての振り返り（R5.3.24 開催）

■概要
日時　：令和５年３月２４日１３：３０～１５：００
会場　：久留米シティプラザ　５階 大会議室
参加者：４８人
内容　：（１）報告：これまでのセーフコミュニティ活動の取組と今後の展開について
（２）ワークショップ
もっと安全で安心な久留米を作るために、セーフコミュニティを浸透させる
→セーフコミュニティを伝えるために、私たちができることは？

（１）これまでのセーフコミュニティ活動の取組と今後の展開について

セーフコミュニティの目的　＝　久留米の安全・安心の向上

- ２回の認証取得でセーフコミュニティが定着し、対策委員会の取組を通して、久留米の安全安心は向上。
- ３回目の認証取得を機に、もっとセーフコミュニティを浸透させ、市民一人一人が安全安心を心がける町にしたい。
- しかし、これまで取り組んできた SC の広報啓発活動では、SC の浸透は困難（R3 の SC 認知度：23%）。
- また、R３年度の SC 実態調査では、多くの人が安全・安心の活動に取り組みたいと考えているが、行動できていない結果も

もっと安全で安心な久留米　　◆多くの人がセーフコミュニティに参加する町
◆市民人一人が安全安心を心がける町

- **SC を浸透させ、安全・安心に取り組む人を増やすためには、できるたけ多くの情報を伝え続けることが大切**

「私たちみんなの力で、セーフコミュニティを伝え続けていきましょう！」

（2）ワークショップ意見まとめ

個人で
○家族や友人、子どもの友達、近所の人に話す ○飲み会のときに話題に出してみる ○出前講座を紹介する ○関連するフェイスブックをシェアする、 ○SNS（フェイスブック、インスタグラム）に SC について投稿する ○くるっぱの反射材をバッグに付けて、会った人に SC の話をする　など

組織・団体の活動で
○所属する団体で実施する活動、講演会・セミナーで SC についての話を入れる、紹介する 介護教室、防災活動、防災教室、救急講習会、児童虐待防止の講演など ○出席する様々な会議で SC の情報発信し、他の団体組織に知ってもらう、働きかける ○仕事で高齢者宅を訪れたときに、SC（転倒予防）についてアドバイスをする ○いきいきサロンの中で何ができるか話し合う ○仕事などで出向いたところで SC の話をしてみる ○自分の所属団体と関係がある施設に SC のチラシやパンフレットを置く ○自分の団体のイベントや広報活動の際に、SC について啓発（チラシ、ブース、展示） ○車にステッカーを貼る ○SC のベストを着て仕事をする ○職場に SC のぼり旗をたてる ○一緒に SC のキャンペーンを行う　など

組織・団体の内部で
○所属する団体の内部研修で SC の話をする、出前講座を実施する ○職場の朝礼や会議、研修の場でＳＣについて説明する、何ができるか話し合う、活動状況を報告する ○PTA や自治会の会議、活動の際にで SC について話す ○校区だよりに SC について載せる ○掲示板にポスターを貼る ○職員に SC について、SC の取り組みについて話をする ○職員に家族に SC について話すよう依頼する ○介護事業者を対象とした研修で SC について話す ○主任児童員に周知する　など

SC ロゴや記事を載せる

- ○職場のメールに SC を加える
- ○自分の団体で作る啓発チラシに SC のマーク、SC 動画の QR コードを入れる
- ○自分の団体で発行する広報誌や HP に SC の記事を載せる
- ○所属する組織が行う情報発信に SC を盛り込む
- ○学校配布物に SC について記載する
- ○職場で使用する封筒に SC マークを入れる　など

他にも

- ○学生が参加するメッセージ動画を作る
- ○入学式や卒業式で、子どもや親に話す
- ○地域ケア会議で SC 目線のアドバイスをする
- ○SC を校区全体で取り組む
- ○全世界的な取り組みであることを SC のグッズに記載する
- ○SC の歌を作る
- ○事業所に一つずつ SC の PR をしてもらう
- ○学校で子どもたちに SC の広報について考えてもらう
- ○学校でワークショップを実施する
- ○SC と、カフェや病院、薬局とコラボする
- ○久留米独自の共通の SC ロゴ・マークを作る
- ○Twitter でハッシュタグを付けて呟き、他市の SC と繋がる
- ○事故事案が発生した直後、当事者意識が残っているうちに SC の講習会などを実施する
- ○事務局が収集している統計数値を提供する
- ○学校のトイレの扉を活用して安全のために必要なことを貼る　など

※※※

団体の集まり等では、是非、出前講座をご活用ください。出前講座に比べ、短時間で視聴できる動画の活用についてもご検討ください。

また、イベントや行事の際は、のぼり旗やチラシをご用意できます。

この他、団体の広報誌やチラシ、HPなどに掲載するSCロゴのデータや掲載内容など、「セーフコミュニティを伝えるためにできること」について、安全安心推進課にご相談いただければ幸いです。どんなことでもご相談ください。

みんなで力を合わせて、「もっと安全で安心な久留米」を作りましょう！

久留米市協働推進部安全安心推進課　担当：豊福、岡、浦部、古賀
〒830-8520 久留米市城南町 15-3　TEL：0942-30-9094　FAX：0942-30-9706
Email：anzen@city.kurume.lg.jp

児童虐待C

主任児童委員への周知

コミュニティの広報誌

職場の係員たちにＳＣについて話をして知らせることはできる

利用者に久留米市の取り組みを伝える

登録ボランティア向け出前講座

中学校での広報活動

子育て支援での広報

自分自身がＳＣの取り組みをもっと知る

職員にＳＣの話をする。

他に参加する会議内でＳＣのことを話すことはできると思う

パパママ向け出前講座

学生へ向け知らせる

防災教室で講話する者に、話の中でＳＣに触れ、死させることはできると思う

利連協の総会の時に2分間プレゼンするとか

ＳＣとくるっぱをスタイリッシュにする夏休みの課題にする話をもちかける

相談者にＳＣの取り組みを紹介。

実家の玄関に旗をたてます。

インスタグラムで写真＋音楽でアップする

FBお友達2000人、ここで写真でupする

Twitterで呟く＃他市のSCの人とつながる

SCをシンプルな伝え方

もっとSCをわかりやすく伝えるお手伝いができるかも

児童虐待

市のDVDを拡散する

各クラスでワークショップ（小・中学校）

ＳＣとカフェのコラボ

ＳＣと病院・薬局との連携コラボ

学校配布物（プリント）等に記載する

職場で児童虐待のチラシなど作る時に、ＳＣのマークを入れる

家族に話す

家族に話す

地域の子供たちに、声をかける。話をきく。

伝える。お知らせのやり方。

伝達、報告、連絡

家族で話す。話し合いする。

職場で話す。説明する。

PTA役員会で報告する。共有する。

振興会役員の皆様方へ

事務局職員の方へ

自治会の方

幼稚園、保育園、高齢者施設で出前講演など

保護者向け教養講座

理解してもらう

ＳＣのマークとくるっぱコラボ

配布物を配る。広報？

家族で話す。話し合いする。

くるっぱの反射板をバッグにつけて、会った人にＳＣの説明をする

ファミサポの通信に乗せる

児童虐待防止の講演、講座の中に、ＳＣの話を盛り込む

久留米独自の共通のロゴ・マークを作る